

先輩インタビュー

内定が決まった
富大の先輩に
インタビューしました!



人文学部

地方自治体(都道府県)Yさん

Q

地方公務員を志望した理由は?

A

父親が高校の教員で幼いころから公務員という職に興味がありました。だけど私は人前に立って話すことが苦手で教員には向いていないなと思っていました。逆に一步下がって全体の観察をしたりサポート役に回ったりする事が好きでそういった経験を多くしてきました。地方自治体(都道府県単位)は国と市町村を繋ぐパイプとなったり、県全体を観察して社会問題の解決の一助をしたり、県民の生活の基盤を支えたりしています。その点が魅力的に映り、地元の地方自治体に勤めたいと思うようになりました。

Q

サークル活動について

A

幼いころからピアノを弾くことや歌うことが好きで合唱団に所属していました。大学3年生の時には、中心学年となって全日本合唱コンクールに向けて練習を引っ張っていく存在に、私はアルトのパートリーダーを担っていました。とは言えぐい引張っていくというよりも、自分らしく周りの意見を聞きながら練習をすすめるやり方を取りました。合唱をして一番好きな瞬間は、はじめての全体練習で各パートの音が一つになるとき。重なり合うとこんな音になるのか、という感動とこれから磨きをかけて変化する様子を想像してわくわくとした気持ちになるんです。最後に目標であった中部大会で銀賞を取る事を達成出来たので本当に嬉しかったです。

Q

最後に公務員を志望する1年生へ

A

1.2年生の内は沢山遊んで自分の好きなこととどんどん挑戦して下さい! 公務員の2次試験では企業の面接のように必ず「学生時代に力を入れたこと」が聞かれます。好きで努力したことはどんな事でも個性を表す良いアピールポイントになります。正直公務員試験の対策は3年生からはじめても十分間に合うと思いますよ。

先輩インタビュー

内定が決まった
富大の先輩に
インタビューしました!



経済学部

新聞社 Aさん

Q

今の就職先を選んだ経緯は?

A

じっとしている事が苦手で、絶えず関わる場所や人が変化し続ける仕事につきたいと考えていました。また、狭く深くよりも広く多くの人を喜ばせたい、そしてそういった顧客の反応をこの目で見たい、そんな気持ちを大切に就職活動をしました。昔からの憧れもありアナウンサー試験に挑戦しましたが最終試験の前に落選。今の就職先に興味を持ったきっかけはインターンシップ先でのイベントで新聞社の社員の方々と活動を共にした事です。新聞社と聞くと新聞の発行だけのイメージがありますが、地域を盛り上げるイベントの企画や運営も行っています。イベントで社員の方々の生き生きとした姿に心をうたれ一緒に活動していきたいという思いになりました。

Q

大学生活での1番の挑戦は?

A

大学2年生の時、コロナ禍で挑戦したクラウドファンディングです。当時、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で大学の授業がリモートになったり、バイトもサークルも出来なくなったりと大学生活は金銭的にも精神的にも苦しい状況でした。同じ富山の大学生の栄養状態は大丈夫なのか、皆の為に出来る事は何か考えた結果、富山の大学生に安くお弁当を届ける活動をする事に。活動の内容は500円で弁当屋に弁当を発注し200円でそれを売る。差額の300円をクラウドファンディングで集める、というものでした。応援して下さいの方の気持ちを無駄にはできない、学生にお弁当を届けたいという気持ちで毎日必死になって活動しました。結果は成功、無事1000人程の学生にお弁当を配ることが出来ました。

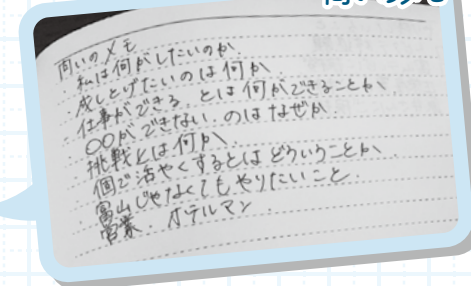
Q

大学生活で成長したことは?

A

自分の中での大切な事を基準に行動できるようになった事です。目の前にある魅力的なことに飛び込み続けた結果、キャパオーバーになってしまった事がありました。そのことで周りの人にも迷惑をかけてしまいました。忙しい状態に満足して目的が見えなくなっていました。そこで自分の考えを整理し、手帳に「問いのメモ」なるものを作りました。これは自分で自分の事を振り返る為の指標です。大切にしたいことなど基準をその都度確認することで挑戦の質が向上したと感じています。

問いのメモ



先輩インタビュー

内定が決まった
富大の先輩に
インタビューしました!

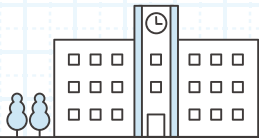


人間発達科学部
小学校教員 Hさん

Q どんな学生生活でしたか?

A 大学という学びの環境を最大限に活かした生活をしていました。
具体的には、大学の教授と仲良くなることです。私が通っていた人間発達科学部(現 教育学部)だと、大学の教授は教育界のプロフェッショナルです。研究室をノックでもすれば教授に会えるというこの上ない環境を生かさなくてはと、毎授業終わりに質問しに行っていました。
また、私は自身が面白いと感じる授業にたくさん当たったので、学校に対してプラスのイメージを持っていたのでそれもよかったなと思います。

Q なぜ教員の道を選んだのですか?



A 高校時代に不登校の私を助けてくれた学校の先生の存在が大きかったです。
私は元々、起立性調節障害があり高校時代は不登校が続いていました。普通のことすらできなくなってしまった自分が嫌になり、うつのような症状も出ました。しかし、そんな私に真摯に寄り添い、大学進学までサポートしてくださった高校の先生がいて、それが私にとってのターニングポイントでした。
誰かの人生にただ助言をするのではなく、軌道を作る仕事に憧れた瞬間は今でも忘れません。私も「子ども達の人生の軌道を作る素晴らしい仕事してみたい!」と感じ、教師を志すようになりました。

Q 後輩学生へ何かメッセージをお願いします。

A 大学生活は“人生の夏休み”とよく言われていますが、私は逆のことを取って言います。大学の教授との人脈を広げた方がいいと思います。
私が大学の勉強をここまで頑張れたのは、教授の人脈が広がるという最大のリターンがあったからです。いい成績を取れば名前を覚えてもらえます。YouTubeを見るのを1時間我慢すればレポートが追加で1ページ書けます。そしてなんと、学生は出席させてもらえないような学会に同席させていただいたり、本当に貴重な体験をすることができました。
このように人脈とチャンスが大学にはたくさん転がっているので、ぜひ活用してみてください。

先輩インタビュー

内定が決まった
富大の先輩に
インタビューしました!



芸術文化学部
複合商業施設イベント運営会社
Tさん

Q 入学当初どのような事に悩んでいましたか?

A やりたい事に時間や力を注げないことに悩んでいました。富大の芸術文化学部を選んだのはグラフィックデザインとまちづくりについて学びたかったから。しかし、最初の1年半はコース配属がなく学ぶ目的を見いだせない教養科目や他分野の授業ばかりで入学したことを後悔した時もありました。しかし3年生の時、興味の範囲外にあったプロダクトデザインの授業で転機が訪れました。「オンライン販売で誰かにプレゼントしたくなる靴下のデザインを考える」という課題をきっかけにデザインに起こす前にどんな人にどのような事を届けたいか、どうしたら問題を解決することができるのかを考えるプロセスの楽しさに気付いたのです。それからは立体や平面といったデザインの枠にとらわれず、本当に自分のやりたい事に気づくことが出来ました。芸文のカリキュラムだからこそ気づけた事です。

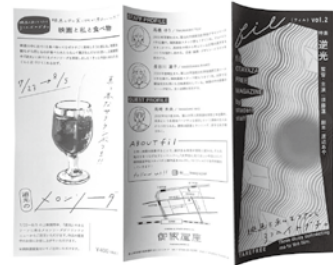
Q 就職先を決めたきっかけは?

A アルバイト先のミニシアターでの活動をきっかけに親会社の職員の方に「是非うちで働いてほしい」と声をかけられた事です。
3年生の時に御旅屋座という高岡の商店街にあるミニシアターでアルバイトをはじめました。ある日、ミニシアターの代表者の運営会議に呼ばれ学生スタッフとして意見することに。その時フリーペーパーの制作や学生会員制度などを提案しました。元気が失われた商店街で映画館のメインの来客層は地域のご高齢の方。若年層に興味を持ってもらうにはどうしたら良いか、リーターを増やすために何が出来るのかそんな事を考え、共同活動に熱心に取り組んでいたところ親会社の代表の方に声をかけてもらえたのです。自分のやりたいことを求めてもらえて、それが出来るチャンス2度と来ないかもしれない、頑張りたいと思い就職を決めました。

Q これから入学する1年生へメッセージをお願いします。

A 経験してきた事、これから経験することに無駄なことはないと思います。自分に嘘だけはつかずに無理せず流れて身を任せる時があっても良いんだと思います。今やっていることに葛藤したり目的を見いだせなかったりすることもきっと将来の自分を形成する不可欠な要素。これから無数の選択をしていく中で悩んだ時、迷った時に自分史を振り返ると、判断する指標にもなってくれます。

Tさん作フリーペーパー



先輩インタビュー

内定が決まった
富大の先輩に
インタビューしました!



理学部
不動産会社 Sさん

Q 学生時代にやって良かったことは何ですか。

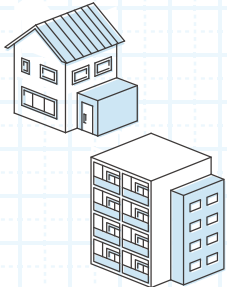
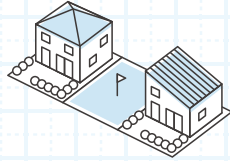
A やりたいことを見つけて、それに全力投球できたことです。富山大学近くにある経営者と学生の交流をコンセプトにしたバー「裏門」を成長させ、学生に気付きと刺激を与えるコミュニティ作りをすることに専念していました。ありがたいことにたくさんの面白い学生や富山の経営者の方々と出会い、この場所をきっかけに富山県への愛着が湧いたのが非常に良かったです。

Q 理学部なのになぜ不動産会社に就職を決めたのですか。

A 私が理学部を選んだ理由は、数学がただ得意だったから」という単純なものでした。数学の研究が将来の職業にどう活かせるのかも全くイメージしないまま今の学科を選んできました。後悔しています。しかし学生生活において様々な経験を重ねる中で、数学とは別に自分のやりたいことを見ることができました。それをかなえられる場所が不動産ディベロッパーの会社だったのです。

Q 後輩達に何かメッセージはありますか。

A やりたいことを見つけ、自分の軸を定める4年間にすれば良いのではないかと思います。進路を選択するとき面接で必ず聞かれる質問は、「あなたはどうしたいの?」です。「私が人生を掲げてやりたいことは〇〇です!」そう言えるようになれば、会社からも引く手あまただと思います。どんなことを言われてもブレない軸ややりたいことがあった方が、言動にも一貫性が出てきますし、成果も出やすく社会から必要とされる人財になるでしょう。



先輩インタビュー

内定が決まった
富大の先輩に
インタビューしました!



工学部
IT系企業 Kさん

Q どんな学生生活でしたか?

A やりたいと思ったこと、興味を持ったことは全部やったと言える学生生活でした。具体的には、ヘアケア製品での起業、プログラミングの長期インターン、ゲストハウスのスタッフ等です。「今やらないとおまへ一生後悔するぞ!やらずに後悔するより、やって後悔しよう!」と自分に言い聞かせながら過ごしていると、就職活動の時に話のネタに困らなかつたり、学生のうちから戦力となるような仕事経験をすることができました。私の専門は工学系ですが、ヘアケアの事業で起業した経験があったことが評価されたのが印象に残っています。自分の専門分野以外の商品販売経験は評価されないと思っていたのですが、それが就職活動で評価されたのが驚きです。

Q 大学生活での大きな経験は何ですか?

A 最初は1つの物事に囚われず、何でも適度にやるようにしたら良いと思います。ただしその中でも、「普通の学生生活よりも何か1つ大きなことを成し遂げた」と言えるものをやった方が自分の成長スピードとしてはかなり早いです。自分がどういう学生生活を歩みたいのかというプランを立てて、考えることも重要でしょう。唯一後悔がありまして、飲みサーに入って大学生らしいことをやってみなかったです(笑)

Q なぜ工学部に入学し、IT企業に入社を決めたのですか?

A 自分で作ったものをより多くの人に使って貰えるのは情報系だと思ったからです。そもそも私は高等専門学校を卒業後、大学に3年時編入しました。兵庫県の淡路島出身であり、この狭い環境から下克上する唯一の方法が、プログラミングだと考えた私は、高専時代から趣味でプログラミングを学び、大学編入後もプログラミングのインターンで経験を積み、IT企業への入社を決めました。



先輩インタビュー

内定が決まった
富大の先輩に
インタビューしました！



都市デザイン学部
マスコミ業界(テレビ) Mさん

Q 就活の流れを教えてください。

A 大学3年生の時は院進学を考えていました。そのため、院に進学するためのTOEICの勉強に力を入れており、月に1回は試験を受けていました。しかし、3年の3月頃に就職も意識するようになり、会社説明会に参加しました。4年の4月になると周りが本格的に就活を始め、院進学も目指していましたが、企業も受けてみようと思い、3月に会社説明会にも行ったことがある、興味のあるマスコミ業界に絞って4月からESを書き始めて提出し、内定をもらうことができました。

Q なぜ院進学ではなく就職をえらんだのですか？

A 3年生の時は就活というものに現実味がなく、周りの人の多くが院に進学するということから自分も院に行こうと思っていました。しかし、4年生になって、本格的に研究を行うようになってから研究の大変さが分かり、院に進んで研究をしっかりと続けられるのか不安に感じるようになりました。そこで、院の勉強と同時進行で進めていた就活で内定をもらっていた会社に就職することを決めました。

Q 1年生へのアドバイスは？

A 多くの人とつながりを作ることが大切です。私は3つのサークルに所属していました。それぞれのサークルで、様々な人と交流することができ、いろいろな情報を教えてもらいました。就活に関するものでは、SPIの参考書を譲ってもらったり、自己分析について教えてもらったり、院ではどのようなことをしているのか教えてもらったりしました。部活など、何かのコミュニティに所属し、様々な経験をするのが大切です。また、興味があることには足を向けてみてください。最初は行きづらと思いますが、1回行ってみると何とかなります。これは、就活に対しても同じことが言えます。インターンや説明会には、興味があったら参加してみてください。自分は何がしたくて、何をしたいのか気づききっかけになったり、世の中の仕事について知り、自分の視野を広げる機会になったりします。最後に、院進学を考えている人にアドバイスです。都市デザイン学部は4年生から本格的に研究が始まります。この時、院進学を少し考えているけれど、研究を続けていくことができるか不安な人は就活を視野に入れながら院進学も目指す方法でもいいのかなと思います。

Q なぜマスコミ業界にしたのですか？

A 単純に興味があり、楽しそうだったからです。自分が働くならどの仕事だろうと考えた時に思いついた仕事がテレビでの仕事でした。住宅業界のインターンシップに参加したり、マスコミ業界以外の会社の採用試験に応募しようと考えたりしたこともありましたが、興味を持つことができませんでした。仕事が楽しそうだと興味を持ち、採用試験を受けたいと思ったマスコミ業界のみに応募しました。

企業に進む選択だけじゃない！！

多くの方は、一般企業に入社することだけを「仕事に就く方法」と考えているかもしれませんが、しかし中には起業したり、研究員になったり、フリーランスになったりする人もおり、道の選び方は多様です。富大から各進路に進んだ人を見ていきましょう！

起業家



Nさん

経歴

4年時にゲストハウスを
立ち上げ、起業



2年間休学し、別の会社
(株式会社就活ラジオ)を
立ち上げ、卒業後はこの企業の
成長に専念する予定。

Q なぜ起業したのか？

A 理由は2つあって、1つ目はノリと勢いです。就活中にたまたま出会った友人と語り合い、意気投合し、就活するより一緒に語った夢を実現させる方が面白いんじゃないかと思い、リスクそっちのけで突っ走ってしまいました(笑)
2つ目の理由は、日本を旅しているいろんな価値観の人と交流して、価値観を広げることの大切さに気づいたからです。ゲストハウスには良い意味でネジが1本や2本外れた面白い人達がたくさん来ます。そこに来たお客さんと学生が触れあうことで、学生の生き方や考え方の選択肢が増えれば良いと思っています。今メインでやっている会社は去年立ち上げた2社目なのですが、思えばその想いの延長でこの会社も手掛けています。

Q 立ち上げた会社を継続するという進路を選んだ理由は？

A 自分が学生時代に作ったものを、まだ可能性があるのに手放すのはもったいないと感じ、かつ無責任だと思ったからです。例えば4年生の時に立ち上げたゲストハウスも、富山の学生の価値観を広げたいという想いで作ったし、今の会社も社会的にやる意義があると思い、起こしました。
どの事業も、やった先に感謝してくれる人がいるのであれば、やる意義もあるのかなと思っています。
自分自身がやる理由がなかったら就職して手取り早く社会の役に立とうとも思いますが、今ある環境で、多くの人に必要とされる可能性があるうちは、それを磨き上げるのに精一杯になろうと思っています。

Q 後輩学生に何かメッセージを

A たくさん挑戦してたくさん失敗したら良いと思います。しかし、何もしないこともそれはそれで価値があることで、気付いたときにやれば良いと思います。もし何か思い立ったときに、いくらかも挑戦できる環境が今の富山にはあると思うので、日頃からアンテナを張っておくと良いのかなと。

企業に進む選択だけじゃない!!

大学院進学



いさん

経歴

富山大学工学部
電気電子工学コースを卒業



富山大学院理工学研究科にて
有機光デバイス工学研究室に
引き続き配属される予定



Q 大学院卒業後の進路について

A 一般企業に就職予定です。私は大学と大学院の計6年間で工学分野を極めることになり、工学関係の会社で活躍したいとは思っているのですが、工学の世界だけではなく読書も好きなので、本にまつわる仕事も気になっています。とはいえ、今後私が経験する状況や環境は、自分が考えることに大きく左右されてしまうと思うので、そこで改めて自分と向き合いたいと思います。

Q どのような大学生活でしたか?

A 勉強に打ちこみ、学ぶ事、探究することの楽しさを実感できた4年間だったと思います。
学ぶ事は元々好きで、理系科目も好きで憧れがありますが苦手です。好きになったきっかけは単純で、自分より勉強ができる友達が数学や物理や化学の知識を使って、日常会話のジョークとして話していたので、自分もそれについていきたいなと思ったからです。
富山大学は自分と同じ学力層が多いのかなと思いきや、工学に関する知識が突出している人が多すぎて焦りを感じた時もありました。しかし、コロナ禍で授業がほとんどオンラインになった2年次の外出自粛期間を使い、苦手なりに家で物理や電気の勉強に打ち込んで少しずつ克服していきました。
その結果分かることも増え、電気の奥深さに気づいたり自分がこれから進んでいく道も拓けたりしたと思います。

Q なぜ大学院進学(研究)という道を選んだのですか?

A 今進めている電気の研究を極められるところまで極めたい、と思ったからです。
学年が上がるにつれて、大学での電気の勉強に面白さと可能性を見出し、まだ余学び続けたいと感じました。大学院に進学するつもりで大学には入学していたのですが、少しずつ気持ちが高まっていったイメージです。
研究報告会の発表を教授に褒めてもらった事や、高校時代の親友に「人間は勉強し続けなければいけない生き物なんだよ」と言われたことが今でも印象に残っています。
大学を卒業して就職の道を選んだとしても常に学び続けなければいけません。もう少し大学という研究機関で、そこでしか極めることが出来ない分野を出来る限り探究していきたいと考えています。

おわりに

最後まで読んでくださり、本当にありがとうございます。

この冊子は就活や将来に対して不安な気持ちや怖い印象を持っている方々が、就活に対して明るいイメージを持ち、前向きに将来の自分を思い描くことができるようになってほしいという思いから作成されました。

手に取ってくださった皆さんの不安を少しでも取り除き、これからの大学生活や卒業後についてお役に立つことができれば幸いです。

私たち富山大学学生キャリアサポーターは2019年に再出発し、今年で5年目となります。

冊子も毎年発行しており今回で4冊目となりました。

作成にかかる時間が予定よりも長くなってしまったり、上手くいかないことも多くありましたが今年も無事に皆様の元へ冊子を届けることができ嬉しく思います。

最後になりましたが、この「はじめての就活」を作成していく中でご協力いただいた、県内企業の皆様や富山大学の先生・先輩方、富山大学就職・キャリア支援センターの職員の皆様に心よりお礼を申し上げます。



学生キャリアサポーター募集中!!!

大学生になり勉強やサークルなどに熱中しようと考えている皆さん!
自分の進路について仲間と真剣に向き合える学生キャリアサポーターになってみませんか?
就活経験が無くても大丈夫です!毎年多くの1年生が活動に参加してくれています!

活動場所:学生会館2階 就職・キャリア支援センター

見学・応募希望の方は
instagramのDMまで
ご連絡ください!



instagram:
tomi_careersupporter

また、オープンチャットでは、
各SNSでは見られない投稿が
盛り山です。参加したい方も
ぜひDMからご連絡ください。



LINE OPENCHAT:
はじめてのしゅうかつ

Twitterもやって
いるので覗いて
みてください



Twitter:
@toyamasyuu2



執筆者一覧

1年	寺田 瑞季 小岩 和葉	櫻井 悠達
3年	黒岩 美晴 伊東 奈桜	飯塚 美汐 今川 遼香
4年	山道 茜 渡邊 緋南	佐々木 優太



協力して頂いた企業様

富山県庁 様
北日本放送株式会社 様
三協立山株式会社 様
株式会社アイザック様

協力して頂いた方々

地域連携戦略室 尾山先生
富山大学OB・OGの皆様



【就職・キャリア支援センターの紹介】

就職・キャリア支援センターでは進路・就職相談や面接練習など富大生の就職活動支援、キャリア形成支援を行っています。インターンシップ等の相談も行っているため、1年生も気軽に立ち寄ってみてください！

場所：五福キャンパス学生会館2階
利用時間：8時30分～17時15分

公式LINEもあるのでぜひ追加してみてください→



アンケートにご協力ください!!!

ぜひ「はじめての就活」を読んだ感想を教えてください！
答えてくれた方には特典としてお得な情報がもらえます！



アンケートは
こちらから

